

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 25 年度第 2 回 FD 情報技術講習会運営委員会議事概要

- I. 日 時：平成 25 年 10 月 15 日(火) 午後 1 時から午後 3 時まで
- II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、会議室
- III. 参加者：田宮委員長、及川委員、家本委員、朽尾委員(Skype)、渡辺アトババ伊(Skype)、
山本アトババ伊
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本(記)

IV. 検討事項

1. 各コース企画の検討について

- 電子教材作成コースでは、Prezi、音声動画の Web でも見せ方、電子書籍の構成を考えている。一斉または個別学修へ利用することを想定している。
- どのような授業で使うためのものか説明が必要ではないか。どのような電子教材を学ばなくてはならないかコンセプトが必要ではないか。例えば、予習への教材作成、学生が能動的に取り組むための教材。事前学習が狙いで、反転学修も考慮できないか。
- コース内で一連の流れとしては、教材を作成して録画し、電子書籍にのせることで予習・復習に利用することではどうか。
- 開催要項にコースの狙いを掲載する。
- コース全体を考慮し、開催趣旨部分にコースの特長を入れて説明してはどうか、アクティブ・ラーニングに向け、こうすべき提示はするが、答えはない、教員自ら対応する必要があること。ICT を使って現在はこのような効果があるなど提示できないか。
- 学生をその気にさせて学修させる。そのための ICT を使った例の紹介、教員がどのような視点で授業をつくるのか姿勢を身に付けられないか。説明からどのように授業をつくるのか考えてもらってはどうか。アクティブ・ラーニングを活用する中での ICT の活用、アクティブ・ラーニングで ICT を使うことで効果がますこと。
- アクティブ・ラーニングを支える事前学習が教材作成コースになるか、学生参加型のための ICT 活用が LMS 活用コースになるか。ICT を使うと効果的、事前学修を目標において教材作成、統合する LMS、授業全体を考えるマネジメントコースになるか。
- LMS 活用コースでは、学生参加型のアクティブ・ラーニングを基本に、LMS の活用、タブレットの利用から授業案とディスカッションを進めることを考えている。タブレットは委員校の設備持ち込みを検討する。
- 授業マネジメントコースでは、ラーニング・ポートフォリオの活用と効果を考えている。グループ評価、中間評価、他者評価、自立学修の目標設定と評価になる。ポートフォリオは、学生の表現について課題があり、就職を意図したテクニックに傾く現実が指摘されている。また、各分野に落とし込むのは難しいのではないか。
- アクティブ・ラーニングの ICT に落とし込んだ話をしてはどうか。アクティブ・ラーニングのための ICT の実践を身に付けるなど。いくつか実践を紹介してグループで討議させたはどうか。
- 医学の例では、試験、モデルコア、PBL、臨床、駒割、積極的参加が特長になる。持って帰ってやれるもの。教育技法を受けて自らの授業に活かす、短時間でどう鍛えるか、なにをやるか提示、自らの授業にどう取り入れ使えるか、分野別はどうか。
- アクティブ・ラーニングの違いについて、ディスカッションしてはどうか、どれが良

いか答えはない。明確な到達度へアクティブ・ラーニングでどう落とし込むかなど、アクティブ・ラーニングの加速化、分野ごとに手法は異なるのではないか。

- 知識として得る（例えば何ページまでの理解）ことをディスカッションさせることについては、資料をつくらせ、相互評価させることで理解が深まる。解のない討議で知識を教えるためのアクティブ・ラーニングにならないか。
- 授業マネジメントコースでは、アクティブ・ラーニングにをどのようにやるかをアクティブ・ラーニングでやる、自らの授業案をアクティブ・ラーニング化することのアクティブ・ラーニングを実施してはどうか。
- 1日目の午後は、授業マネジメントとLMS活用コースでアクティブ・ラーニング概要部分を合同で実施してはどうか。2日目がワークショップで、3日目がプレゼン評価ではどうか。
- グループで学修させることの意識改革、大学として支援体制が必要。動機づけの問題など、ポートフォリオあるが一つのやり方だけではないであろう。
- 全体会は、基調講演1、授業事例3で講師の調整を進めることにした。

V. 今後のスケジュール

- 開催趣旨の部分は案を作成し、各コースのコンセプトも作成、マーキングリストで検討する。
- 次回11月5日を予定し、開催要項作成に向け検討する。